

師走となりました。長引く新型コロナウイルス感染症対策は、一人一人がしっかりと予防しながら日常生活を行っていくことが大切です。こうした中、2学期には、対策をした上で行事も行われ、子どもたちの元気な声や楽しむ姿も見られてきました。さて、4月～6月にかけて矢口東小学校と新宿小学校を会場として行われた「幼児期運動指導（運動遊び指導）リーダ保育者養成研修会」（初級編・中級編）で、参加者から寄せられた多くの質問に対し、柴崎裕貴先生（NPO 法人運動保育士会運動指導員）にお答えをいただきましたので、お知らせいたします。裏面では、第3回・4回幼稚園教諭・保育士合同研修会の様子をお伝えします。

< 鉄棒についての質問 >



補助のポイント

補助者は片方の手で腰を支え、もう一方の手を目印に高く上げる



補助のポイント

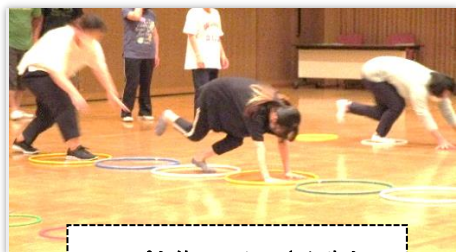
補助者は鉄棒の下に入り、幼児が安心して、回れるようにする

- Q** 逆上がりをするときの鉄棒の正しい握り方について教えてください。
- A** サル握り（逆手）でよい。幼児は成長過程であるために、指の関節を曲げてしっかりと鉄棒を握れないことを念頭に置いておくといいでしょう。
- Q** 逆上がりをするとき、気をつけることはどんなことですか？
- A** 体を鉄棒に近付け、脇が開かないように閉める。補助の時、足を上げる方向を示してあげるとよいでしょう。
- Q** 鉄棒の適した高さはどのくらいですか？
- A** 前回りは、低めの方がやり易い。ぶら下がり、目線の高さ。逆上がりは、肘を曲げたとき、鉄棒が肩の高さになるとよいでしょう。
- Q** お腹が痛くなる時の対応はありますか？
- A** 鉄棒がお腹に当たる辺りにタオルを巻き慣れるようにするとよいでしょう。
- Q** 前回りですぐに倒れるのが怖い子どもは、どのようにしたらよいですか？
- A** 鉄棒の下に先生が入り、膝に子どもを乗せて回れるようにする。その時、幼児の頭を押さえるとよいです。頭から落ちないように気をつけましょう。

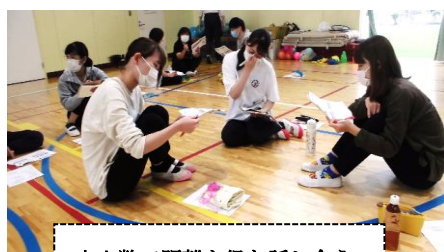
< 保育実践で取り入れられる工夫 >

- Q** クラスの中では、運動が好きな子どもや嫌いな子どもがいます。アプローチの仕方を教えてください。
- A** 「できない子ども」のレベルに合わせて、できる子どもを見本にする。差が出てくると思うので、できる子どもには、サーキット遊びへ誘う。個別に対応すると満足するでしょう。やらない子どもには、無理強いしない。なぜ嫌なのか考察する。例えば、子どもの中にはクマさん歩きをやりたがらないのは、過敏で、床に触れることができない場合もあります。「この中でやりたいことある？」と聞いてみるとよいでしょう。
- Q** 落ち着かない子どもがいるが、トラブル無く、あまり動かずにできる遊びはありませんか？
- A** 床に「目印」を付け、その場足ジャンケン、グー・パーやその場でかけっこ、腿上げジャンプ、体を使って大きくジャンプをするなど楽しむ方法もあります。補助者は、このとき張りのある声で行うのがコツです。
- Q** 年長児の担任をしているが、運動遊びをする上で分かりやすい説明の仕方がありますか？
- A** 先生が実演してイメージをもたせることや絵を使い視覚に訴えると分かりやすいです。サーキットなどは今から始めれば、2か月後には楽しめると思います。

< 研修の取組の様子 >



フープを使ってクマさん歩き。



少人数で距離を保ち話し合う。



直接、手を触れずバランスボールを使用。